

ソシオネットワーク戦略研究機構設立



ソシオネットワーク戦略研究機構長 鶴飼 康東 教授

高度な情報通信技術を活用し、
世界が直面する社会問題を解決する

「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」に採択

ソシオネットワーク戦略研究機構(以下略称: RISS)は、昨年6月文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」に私立大学として初めて採択され、同年7月関西大学5番目の附置研究所として設立、10月には文部科学大臣より「共同利用・共同研究拠点」として認定された。RISSは、高度情報通信技術を実際の政策に応用する目的で設立された研究所であり、ソシオネットワーク戦略研究センター(RCSS)と政策グリッドコンピューティング実験センター(PG Lab)、この4月に設立

予定のデータマイニングラボラトリー(DM Lab)の附属3センター構想により、実証分析、社会シミュレーション、データマイニングにおける世界最先端の研究を行う。RCSSセンター長とRISS機構長を兼任して強力なリーダーシップを発揮している鶴飼康東・総合情報学部教授に話を聞いた。



ることを意味します。超一流の専門家の厳しい採点を受ける。研究資金は公認会計士により厳しく査定される。つまり、独創的な研究であると同時に、合理的な資金設計をした研究計画でなければならないのです。RISSは日本社会の成熟したものの見方、豊かな資金、優れた若い研究者という3つの条件が揃い成立しており、日本でしか成立しない組織と言えます。

●画期的な研究体制

RISSと他の研究機関との大きな違いは、第1に、文系と理系の学者が共同研究をしていることです。両者は考え方が全く違い、共同作業が非常に難しいため、これは世界的にも稀なことと言えます。

第2に、決定権がすべて機構長にあることです。論理的に考えてどちらが正しいか分からない場合は、全人格をかけた直観で私が決めます。文系と理系の違いをよく分かった上で、どこが問題点であるかを瞬間的に把握し、研究方針を決断します。

第3に、若い研究者を重視していることです。新しい研究をするには若ければ若いほどよい。若い研究者はお互いに意見を戦わせ、新たな研究テーマの発見ができます。政府や民間の研究機関には上下関係があり自立心が育てにくいのですが、ここでは純粋性を保ちながら実践的な融合研究ができます。

そのほか、2年に1度研究成果報告書を提出し、それに対する厳しい外部評価が行われます。たとえば、Aという点が劣っているというコメントがつくと、Aにおける日本一の研究者をつれてきてただちに研究させる。英語論文を書きはじめる。そのスピードは中間審査を経た後、半年以内に必ず達成するというハードな条件です。

また、RISSには科学研究費補助金をはじめ、さまざまな外部資金が集中しています。これは、厳しい外部の目にさらされ

●社会問題のなかで着手している研究課題の例

金融面では、情報の伝達が非常に速い市場において、その情報はどのようなネットワークにより、どのような形で世界に広がるのか、それを中央政府がどのようにコントロールすればいいのかなど、従来の経済学の枠組みだけでは捉えきれないことをグローバルなネットワークで研究し、金融不安に備えます。

また、情報セキュリティ面では、さまざまに連結された情報ネットワークがどのような外部からの攻撃、被害に耐えていけるのかの研究を行っています。関西大学総合情報学部の第1期生である竹村敏彦助教と約2年前に共同研究した迷惑メール、メールによるコンピュータ障害の研究は、総務省における特定電子メール法の改正作業に大きな影響を与えるなど、すでにさまざまな政府の政策に生かされています。

国民年金面では、心理学者とともに実験経済学を用いた膨大なWebアンケート調査を実施し、未納者はどうして年金保険料を支払わないのか、どのくらい年金を支給すれば納得するのかなどのシミュレーションを行っています。少子高齢化に備え、年金をどのように設計すればいいのか、どうすれば若者が安心して働け、年配者が安心して退職後を暮らしているのかということ制度的に設計し、さまざまな提案をしています。

●RISSが促進する共同利用・共同研究

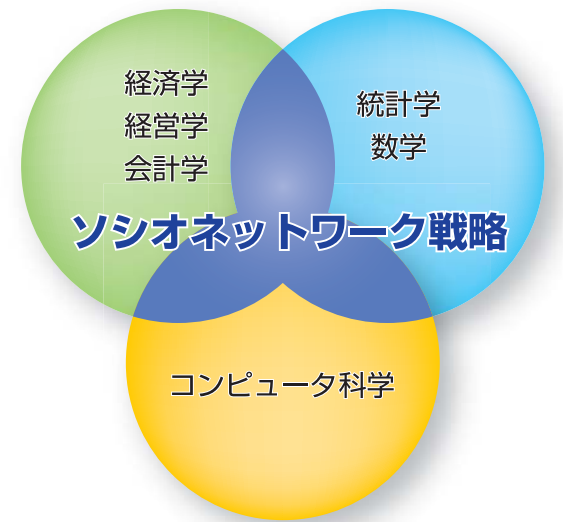
RISSは文部科学大臣より日本にたった7つしかない共同利用・共同研究拠点の認定を受けています。蓄積データは審査を受けた研究者に公開され、公募による研究者が参加します。現在公募研究者は、竹村助教、(株)富士通総研などの民間企業において経済分析を行ってきた峰滝和典統計分析主幹を含む6名で、従来の研究員と共同で新しい研究を行っています。研究が進展すればサーバ上にデータを公開し、外部の研究者も利用します。国民の税金を使うため、開発したシステムは無料で公開することが義務付けられており、全ソースコードも公開します。

刊行物としては、Springer社から英文査読誌『The Review of Socionetwork Strategies』を継続的に発行し、6月にはVol. 3, No. 1を出す予定です。全論文に18桁のDOI(デジタルオブジェクト識別子)が付与されており、各論文がDOI別に集計され、誰から引用され、いつどれくらいダウンロードされたか、等がわかるようになっています。目標インパクトファクターは0.5です。また、今年3月に『ソシオネットワーク戦略研究叢書』の第8巻も出版します。これは全20巻を予定しており、ソシオネットワーク戦略という概念を、分かりやすく日本の読者に伝えるという使命を果たしています。



●世界規模の研究ネットワーク体制

今年1月、計量経済学の世界の権威であるハーバード大学のデール・ジョルゲンソン教授に関西大学名誉博士号を贈呈しました。彼はRISSが進めていく実証研究について、今後も大きな力を発揮すると思っています。すでに英文査読誌の編



集への助言を仰いでいるほか、全アジアに跨るハーバード大学出身の研究者との連携をはかるなど、西太平洋地域にRISSの情報通信技術の研究ネットワークを作り上げていく上で、彼の果たす役割は非常に大きいと言えるでしょう。

また、10月に大阪で開催する国際会議に基調講演者として来学するシカゴ大学のコンピュータ科学者イアン・フォスター教授も重要な人物です。文系のジョルゲンソン教授と理系のイアン・フォスター教授。文・理2名のノーベル賞候補を抱えている機構は世界初であり、RISSの大きな特色です。

●世界に役立つ新しい学問領域の開拓

RISSは5年間の短期目標、10年間の中期目標、100年間の長期目標をたてています。短期目標は「日本の経済政策に大きな貢献をすること」です。たとえば、今の金融危機においてどのような銀行再編成を行えばいいのか。中国の金融市場とどのようなネットワークを築いていけばいいのかなどです。しかしそれは最終目的ではありません。RISSが手本とするのは、オーストリアの医学者ジグムント・フロイトが開拓した精神分析学です。彼が精神病を研究するための医学と人の心を考える心理学を結合させ、精神分析学を作り出したと同様に、RISSの最終的な長期目標は、経済学やコンピュータ科学を取り入れながらソシオネットワーク戦略研究という独自の学問体系を作り上げ、全世界に普及させていくことなのです。欧米各国は新しい学問を開拓して全人類に貢献していますが、果たして日本の新分野開拓はあるのでしょうか？そこに私たちが100年かけてRISSを運営する存在理由があるのです。

KANDAI NEWS

外国語学部がスタート

関西大学外国語学部が4月、千里山キャンパスにてスタートする。英語教育、中国言語文化、外国語コミュニケーションの3専修で、一般入試の入学定員150人に対し、3592人も志願者が集まった。「国際的精神の涵養」と「外国語学習の必要」という教育理念の実現に向けて、①高度な外国語コミュニケーション能力を備えた英語・中国語教員の養成と、②実践知性としての高度なコミュニケーション能力を備え、国際舞台で活躍するリーダーの養成を目的としている。

臨床心理専門職大学院を開設

関西大学臨床心理専門職大学院(心理学研究科心理臨床学専攻)が4月からいよいよスタートする。学校・教育、医療・福祉、産業・キャリアの3コースに分かれており、①時代のニーズに対応する臨床心理の高度な専門性の習得と、②心の専門家としての倫理観や優れた人格を備えた人材の育成を目的としている。修了者には「臨床心理修士(専門職)」(Master of Professional Clinical Psychology)の学位が授与される。